2011 道東TCM(北見)報告書(U－14)

期　日　平成23年6月19日(日)
会　場　北見市モイワスポーツワー

1. 参加選手(16名)

選手氏名	所属チーム	選手氏名	所属チーム
大西一生	R.シュペルブ	浅井雅也	SC釧路
竹川薫紋	R.シュペルブ	嶋　拓人	SC釧路
中尾謙太	R.シュペルブ	高島和輝	SC釧路
松野史靖	R.シュペルブ	齊藤茅人	SC釧路
佐藤雄也	R.シュペルブ	荒川勇気	富原中学校
高倉　響	R.シュペルブ	関向崇裕	富原中学校
柳本悠希	R.シュペルブ	成田涼弥	景雲中学校
東　虎次郎	庶路中学校	阿部雄馬	景雲中学校

2. はじめに

前回のTCMの反省から今回も「守備」に重点を置いてゲームに臨むため、
以下のことを伝えた。
「個」として、
①マークの三原則を意識してポジションをとること。

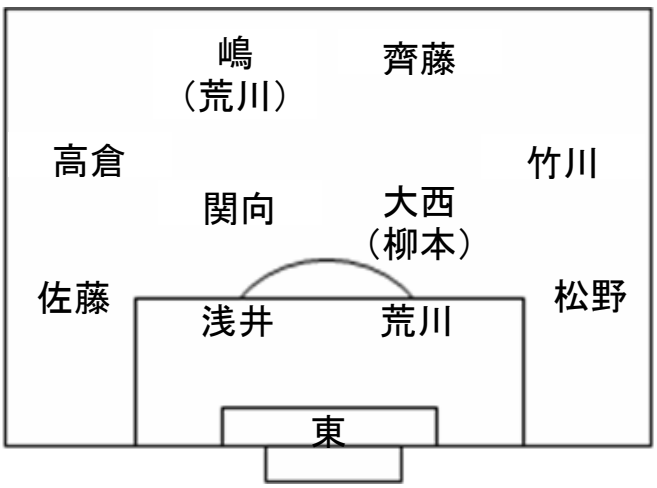
※マークの三原則※
・マークする相手選手とゴールの中心を結ぶ線上に位置する。(ゴールを隠す)
・マークする相手選手とボールが同時に見える場所に位置する。(視野の確保)
・マークする相手選手にボールがわたる前にボールを奪える距離に位置する。

②インターセプトができなかったら1対1で簡単に抜かれないこと。(粘り強さ)
→プレーの方向を限定させる。

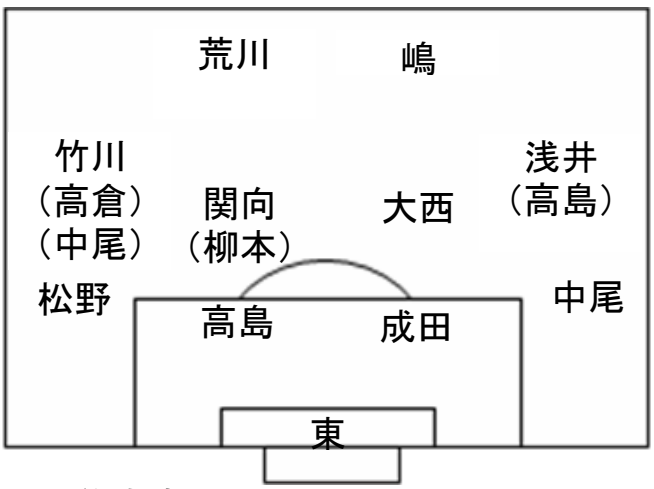
「組織」として、
①FWはギャップを閉めて、相手GKからDFに、DFからボランチにボールを入れさせない
②ボランチもギャップを閉めて、相手FWにボールを入れさせない。
③意図的にサイドにボールを運ばせてボールを奪う。

3. 結果報告

① vs 根室TC(60分)
得点:20分、29分、33分、47分
失点:9分、31分、35分



② vs 十勝TC(60分)
得点:30分、54分
失点:14分、22分、31分



※(　　)内選手は後半出場

4. 成果と課題

～ベーシックスキル～

　事前によい準備ができている（観ている）選手はターンやボールの置き所など優先順位を考えたプレーができていた。基本的なテクニックが身についている選手が多かったが、判断のない（観ていない）プレーでボールを失う場面が目立った。攻守ともに切り替えが遅く、1stDFの決定や自分のマークの把握に時間がかかり後手にまわることが多かった。多少時間は空いたが、2試合連続で行ったということもあり、運動量が落ちる場面があった。試合（後半）開始時や続けての失点が目立った。

～守備～

　（全体から切り取って）2対2～3対3までの守備はできていたように思える。ベンチからコーチングすることで組織的な守備ができていた。これは選手が組織的な守備が理解できているということなので、今後は選手同士でコミュニケーションをとりあって行ってほしいものである。ボールを深追いしすぎ逆サイドへの展開に対応できていなかったり、切り替え時に1stDFがはっきりしなかったり、寄せがあまく自由にプレーさせることで起こるマークのずれなどが生じていた。失点の場面は、ボールウォッチャーのためマークすべき相手選手を見失って裏をとられたり、個人技で完全に崩されたり、バイタルエリア付近からのミドルシュートであった。相手ボールホルダーへのプレッシャー状況によってのポジション修正やスピード、テクニック、フィジカルのある選手にたいしてのONの守備にも課題が残る。

～攻撃～

　ゲームが進むにつれて攻撃の連動性がみられるようになった。切り替えの早さやサポートの質も徐々に向上していった。得点の場面は、タイミングよく相手DFの裏へ抜け出しての得点、相手ゴール前での個人技での得点であった。無理矢理こじ開けるようなプレーでの得点も悪くはないが、判断が伴っていないプレーではレベルの高いカテゴリーでは通用しないものである。シンプルに裏のスペースを狙う、それによってできたスペースを共有できるような意識を常に持ち続けてほしい。

　ドリブルで仕掛けるのみや相手DFの裏に蹴られたボールにFWが後から追いつくというプランのない攻撃しかしない時間帯もあった。FWにボールがわたってもサポートが遅く、孤立してしまったり、切り替え、関わり、サポートの質が悪くパスの選択肢になれていない部分もあった。GKからのビルドアップからDFやボランチなどへのパスの質が低いため狙われてピンチを招くことも多かった。

5. まとめ

今TCMに向けてある程度ポジションを固定してサイドでボールを奪うという守備のトレーニングを行ったこともあり、比較的狙いは浸透していたように思える。
1stDFが方向を限定していたり、粘り強く対応できている場面では、2ndDF（サイド）で意図的にボールを奪うことができていた。成果と課題でも挙げたが、1stDFの状況次第で、2対2～3対3ぐらいまでは何となく対応できていたが、それ以上の組織的な守備になってしまうと後手にまわる守備が目立った。

今後のトレセン活動では常によいポジションをとり続けながら個としても組織としても意図的な攻撃・守備ができるよう心がけてほしい。特に守備ではマークの三原則の意識、1stDFの粘り強い対応が組織的な守備の基礎となる。一人ひとりの責任と重要性を感じてプレーしてほしい。

オフ・ザ・ピッチでも遠征慣れしている選手がほとんどであったので自分達で時間の使い方（昼食含）などうまく調整できていたように思えた。オン/オフ・ザ・ピッチともにチームの代表、釧路の代表ということを忘れず、他地区からも目標とされる選手を目指し続けてほしい。

文責：釧路トレセンU－14スタッフ　菊地　勲（白糠中）　飯塚　順也（大楽毛中）

ルド

い。

No 2

No 3